

報 告

医学生のロールモデル：2年生を対象にした
「ロールモデルを探す」授業の試み

福田吉治

山口大学医学部地域医療推進学 宇部市南小串1丁目1-1 (〒755-8505)

Key words：医学教育，ロールモデル，キャリア教育，医学生，女性医師

和文抄録

目的：具体的な行動や考え方の模範となる人物である「ロールモデル」を持つことは、学習意欲を向上させ、医学教育でのその重要性が高まっている。今回、医学生に自分のロールモデルを挙げてもらい、その内容を分析し、ロールモデルに関連した医学教育のあり方について検討した。

方法：2013年、山口大学医学部医学科2年生に対して、ロールモデルについての授業を行った。学生に各自3名までロールモデルを挙げてもらい、グループワークを通じて情報共有した。

結果：138名の人物がロールモデルとして挙げられた。主な職業は、専門医、研究者、総合診療医・地域医療、文化人、開業医の順で、メディア等で著名な者が多くを占めていた。女性は16名、山口大学の教員は11名（うち臨床系教員は2名）であった。

結論：学生は多様なロールモデルを持っていたが、学内の臨床教員や女性医師がロールモデルになりえていない課題も明らかになった。女性医師や臨床医等の身近なロールモデルを提示する必要がある。

1. 諸言

ロールモデルとは、将来において目指したいと思う、模範となる存在であり、そのスキルや具体的な行動を学んだり模倣をしたりする対象となる人材の

ことをいう¹⁾。ロールモデルを持つことによって、将来のビジョンやキャリアが描きやすくなり、モチベーションを高めることができる。

医学教育においては、かねてからロールモデルの重要性が指摘されている²⁻⁵⁾。学習意欲の向上とともに、診療科等の進路決定においてもロールモデルの存在が大切な役割を果たす^{6, 7)}。特に、新しい医師臨床研修制度の導入後、より良い研修を行うためには、指導医が研修医にとってロールモデルであることが求められている⁸⁾。また、女性医師や女子医学生の増加に伴い、身近なロールモデルの存在は女性医師のキャリア形成の上で欠かすことができない^{7, 9-10)}。

今回、医学生へのキャリア教育の一環として、学生に自分のロールモデルを挙げてもらう「ロールモデルを探す」授業を行い、挙げられた人物について分析した。分析結果をもとに、学生がどのような人物をロールモデルとして認識しているのかを明らかにし、ロールモデルに関連したキャリア教育のあり方について検討した。

2. 方法

1) 対象

山口大学医学部医学科2年生を対象とした。キャリア教育の一環として、2013年12月に、90分間を利用して授業を行った。

2) 方法

表1のステップで行った。まず、前日の授業にお

いて、各自3名のロールモデルとなる人物を考えてきてもらう宿題を課した。ロールモデルの条件は、医学と医療に関係する者とした。翌日、グループワーク形式で授業を行った。10のグループに分かれ(1グループ約12名)、考えてきた人物をそれぞれ紹介し、グループで1名を選び、発表してもらった。

なお、この授業に先立ち、医師のキャリアについて、臨床研修制度や専門医制度などについて説明するとともに、仮想ケースを用いたキャリアパス作成の授業を行った¹⁾。また、ロールモデルの考え方やキャリア・アンカーなどについての説明も行った。

3. 結果

122名の学生から138名の人物がロールモデルとして挙げられた(重複あり。のべ353名。以下、カッコ内はのべ人数)。表2に、2名以上の学生が挙げた人物の具体的な名前を記載した。

主な分野は、専門医46名(103名)、研究者27名(97名)、総合医・地域医療12名(24名)、文化人10名(31名)、開業医9名(10名)であった。女性は16名(33名)、全体の11.6%で、うち現存の日本人医師は10名(14名)であった。山口大学の教員は11名(27名)で、うち臨床系教員は2名のみであった。

表3は、10のグループから代表として紹介された人物について、人物名、所属等およびロールモデルとして挙げた理由を示した。著名な医師に加えて、学生の父親2名と学内基礎系教員1名(2グループより発表あり)が含まれていた。

4. 考察

キャリア教育の一環として、「ロールモデルを挙げる」をテーマに、グループワークを中心にした授業を行った。その結果、多様なロールモデルが示され、学生にとってキャリアを考える機会を提供できた。一方で、ロールモデルに関連したキャリア教育の課題も明らかになった。

ロールモデルとして、著名な研究者、メディアで取り上げられる医師等を挙げる学生が多かった。山中教授に代表される研究者、天野教授に代表される専門医、日野原先生に代表される著書や講演で有名な人物などである。また、最近注目され、メディア

表1 授業の流れ

ステップ	内容
1. 宿題 (前日)	ロールモデルと思う人を3名考えてくる。 ・名前、所属・肩書き、経歴、選んだ理由を記載 ・条件=医学・医療に関連する人物
2. グループワーク	1) 各自、自分のロールモデル3名を紹介し、そのうち1名を代表に推薦する。 2) 推薦された人物から1名をグループ代表とする。
3. 発表	各グループより、以下の3枚のスライドで発表 1) グループのメンバーから1名ずつ推薦されたロールモデルの名前と所属・肩書き 2) グループ代表となった1名のロールモデルの名前、所属・肩書き、経歴、写真など 3) 2)で紹介した人物を選んだ理由(特に、キャリア・アンカーに注目して)

表2 ロールモデルとして挙げられた人物(2名以上の学生が挙げた者)

学生人数	人物名(敬称略)
38	山中伸弥
29	天野篤
20	福島孝徳
18	日野原重明
12	野口英世
10	海堂尊
9	川原尚行
8	ナイチンゲール、手塚治虫
6	服部匡志、学内基礎系教員
5	北里柴三郎、林寛之、学内基礎系教員
4	中村哲、鎌田實、中村伸一、萩野吟子、パッチアダムス、マザーテレサ、向井千秋、上山博康、学内基礎系教員
3	若月俊一、新波博、学内基礎系教員
2	ゆうきゆう、浜辺祐一、アレキサンダー・フレミング、瀬戸上健二郎、志賀潔、伊達洋至、松本尚、吉岡秀人、徳田安春、斉藤茂太、大木隆生、佐野俊二、草場鉄周、進藤奈邦子、学生の父親(開業医)、学内基礎系教員2名

(注) 学内および関係者は匿名としている

表3 グループの代表として紹介された人物と選んだ理由

人物名(所属等)	選んだ理由
日野原重明(聖路加国際病院理事長)	・ 生涯現役。患者さんだけでなく自分自身の健康にも気を使う。まさに医師の鏡。 ・ 自分自身の命を大切に思うからこそ患者さんの命を大切に思える。医師としての根本的な理念。
西塚泰美(故人:元神戸大学学長・名誉教授)	・ 細胞増殖に関わるシグナル伝達経路を明らかにし、その後のがん治療薬の開発に貢献した。 ・ 成果が複数の分野の研究に貢献した点を含めて、研究テーマの着眼点の良さ。
林寛之(福井大学医学部教授)	・ 救急患者のたらい回しを減らすことに貢献した。 ・ 育児休暇をとる。 ・ 「笑う門には福来る」をモットーに笑顔が多い。 ・ 教育面にも大きく関わっており、書籍やDVDも多く出版。
天野篤(順天堂大学医学部教授)	・ 私も数年間浪人し、自分と重ねてしまうところがありました。医学部に入学するのに時間がかかり、これから医師としてやっていけるか(個人でいた時期もありましたが)、天野先生が大学入学後も決して優秀な学生ではなく、いろいろな困難があったにも関わらず、大きな手術を任せられるだけの実績をあげてくれたことを知りました。私も、あきらめることなく勉強を続けていきたいと思いました。
チェ・ゲバラ(故人:軍医・革命家)	・ 医学の特にとらわれず活動し、常人が黙認しようとする問題にあえて介入しようとした。 ・ 一定の地位を得た後も、それに胡坐をかかなく前線でも活動した。 ・ 誰よりもよく行動し、革命達成後も、喘息を抱えながら、寝食を忘れて公務と勉強に励んだ。
長純一(石巻市立病院開成診療所所長)	・ 高齢者医療や地域医療の直面する課題に正面から取り組んでいる姿勢に感動した。 ・ 被災者のために石巻市へ応援医師として派遣された。被災者の生活支援や保健活動を通じた健康問題への対応が重要だと考えている。医師の側から出向くという精神は見習うべきと考えた。
同級生の父親2名(医師)	・ 特にすごい研究をしているわけでも、神の手を持っているわけでもないと思う。でも、仕事と家族の両方をしっかり考えている。 ・ 私は将来医師として働く一方で、自分や家族の生活もいかにしていきたい。 ・ 夫婦で営む開業のあり方に興味を持ったから。 ・ 夫婦でお互いにフォローしながら診療している。 ・ 能力を超えて患者さんを診ないよう注意し、かつ、自分の能力を高めるように努力している。
学内基礎系教授(2グループより)	・ アメリカと日本のどちらでも活躍。 ・ 重要な多くの研究成果がある。 ・ 授業が素晴らしい。

順不同。敬称略。所属等は、学生の発表に基づく。選んだ理由は、学生の発表内容をそのまま、あるいは若干の修正のうえ記載した。

でも取り上げられる機会の多い総合診療や家庭医療を専門とする人物も多く挙げられた。一方で、山口大学の教員、かかりつけ医、あるいは自分や同級生の父親などの身近な者も多く提示された。グループの代表として挙げられた10人の人物には、著名な臨床医や研究者、革命家、学生の父親（医師）、学内教員と多様であった。また、挙げた理由も、研究業績、生き方、授業や教育への熱心さなど、さまざまであった。今回の授業に当たり、キャリア・アンカー（個人が自らのキャリアを選択する際、最も大切にし、他に譲ることのない価値観や欲求）¹²⁾についての説明を行った。学生は、仕事と家庭の両立、自身の健康管理、高齢者・地域医療の課題への取り組みなど、それぞれの人物のキャリア・アンカーに注目していたことがわかる。

さらに、今回はグループワークの手法や発表を取り入れることで、キャリア教育の効果が高まったと考えられる。授業後の感想で多くあった意見は「他の学生が自分と異なるいろんなロールモデルを考えていて、大変参考になった」というものであった。学生には、すでに確固としたロールモデルを持っている者から、医師と接する機会をほとんど持たなかった者まで幅広く、ロールモデルを考えたこともない学生まで幅広いと思われる。グループワークや発表を通じて、同級生が、多様な視点から、多様なロールモデルを持っており、将来のキャリアを考えていることに触れることで、多くの刺激を受けたことだろう。

いくつかの課題があることもわかった。まず、ロールモデルとして挙げられた女性医師は少なかった。名前の挙がった女性は16名で、うち現存の日本人医師は10名であった。のべ人数として、ロールモデルでの女性の割合は全体の11.6%であった。対象学年の女子学生の割合が約40%であることを考えると、ロールモデルの女性の割合は非常に低い。女子学生が、男性医師をロールモデルにすることも好ましいことではあるが、同性のロールモデルをより早期から持つことは、自分のキャリアを考えることが重要とされている^{7, 9-10)}。

また、学内の教員として、基礎系教員の名前は一定数挙げられたが、臨床系教員は2名の教授が挙げられたに過ぎなかった。これは、今回の対象である2年生の講義の多くは基礎系教員が行うため、学生と臨床系教員とが接する機会がほとんどないためと

考えられた。カリキュラムのためにやむを得ないことはあるが、より早期から、学生と臨床系教員とのつながりを強くすることを推奨してもよいだろう。メディアに登場する著名な臨床医がロールモデルとして挙げられているが、自学にも多くの優秀な専門医、最先端医療を行っている医師が所属していることを積極的にアピールすることが必要である。

山口大学と山口県に限定したことはないが、卒業後の大学離れ、そして、女性医師のキャリア支援が課題となっている。その解決策のひとつとして、臨床系を含めた教員と学生との交流を早期から図ったり、女性医師のロールモデルを提示したりすることが重要と考える。低学年から、基礎と臨床を問わず、大学が得意とする分野を中心に学生に授業を行う機会を増やし、自分の大学の魅力を学生に積極的にアピールすることが望ましい。女性医師については、大学外を含めて、女性医師と学生との交流を増やすことが大切である。山口大学では、3年生の地域包括医療修学実習や5年生の臨床実習Ⅰの地域医療実習でも、県内の女性医師のもとで実習を行うことができる。また、山口県医師会では、女子医学生が県内の女性医師のもとで実習を行う「女子医学生インターンシップ」を行っている。こうしたカリキュラムや活動を通じて、女子学生が女性医師のロールモデルを見つけることの手助けができよう。

新しい医師臨床研修制度の導入や今後の専門医研修の開始など、医学教育と研修が体系化される中で、指導的立場の者にはロールモデルとしての意識が求められる⁸⁾。日常的な教育において常に医学生や研修医に見られる立場にあることの自覚が、よりよい教育や研修につながり、自分をロールモデルと慕う後輩に出会えることになろう。結果的に、質の高い医師の養成とともに、自分の大学や地域における医師確保が期待できる。

本研究の限界もいくつか指摘できる。まず、ロールモデルについて、先行的に導入されている看護教育において、ロールモデルやロールモデル行動の定義は一様ではないことが示されている¹³⁾。すでに述べたように、教員との関わり、臨床実習や地域実習を通じて、ロールモデル提示すること、あるいは、学生が自らロールモデルを見出すことが期待されている^{14, 15)}。こうした効果については、経験的あるいは定性的には認められているものの^{16, 17)}、体系的な

評価は十分ではなく、今後、キャリア教育を進めるためには、その効果を検証しなければならない。また、ロールモデルは、無意識のうちに選んだり、発見することが多いと考えられるが、今回のように、授業を通じて“探す”ことが学生にどのような効果をもたらすかは検討が必要である。

今回、「ロールモデルを挙げる」をテーマにキャリア教育を行った。学生は多様なロールモデルを持っていることがわかると同時に、大学内のより身近な医師や女性医師がロールモデルとはなっていない課題も明らかになった。こうしたキャリア教育の実践とともに、より早期から、女性医師や学内の臨床医等を含めた多様なロールモデルを提示すること、そして、ロールモデルとなる人材を育成することの必要性が示された。

引用文献

- 1) 厚生労働省. メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル. 厚生労働省. 2013. <http://www.mhlw.go.jp/topics/koyoukintou/2013/03/07-01.html> (参照2014-6-5)
- 2) Wright S, Wong A, Newill C. The impact of role models on medical students. *J Gen Intern Med* 1997; 12: 53-56.
- 3) Skeff KM, Mutha S. Role models - guiding the future of medicine. *N Engl J Med* 1998; 339: 2015-2017.
- 4) Paice E, Heard S, Moss F. How important are role models in making good doctors? *BMJ* 2002; 325: 707-710.
- 5) Cruess SR, Cruess RL, Steinert Y. Role modelling - making the most of a powerful teaching strategy. *BMJ* 2008; 336: 718-721.
- 6) 田中淳一. 研修病院並びに男女間における研修医の専門領域決定因子の差異の検討. *新潟医学会雑誌* 2012; 126: 694-704.
- 7) 鈴木 昌, 船曳知弘, 伊藤壮一, 他. 初期臨床研修医の専門分野選択に関する調査-男女共同参画の視点から-. *日救急医学会誌* 2009; 20: 181-190.
- 8) 野村英樹. 研修医教育における指導医の役割. *日内会誌* 2008; 97: 1135-1139.
- 9) 早野恵子. 内科診療と女性医師. *日内会誌* 2007; 96: 2843-2846.
- 10) 野原理子, 櫻井美樹, 斎藤加代子. 女子医学生アンケート調査によるファミリーサポートを通じたキャリア教育の可能性の検討. *東京女子医科大学雑誌* 2013; 83: 235-241.
- 11) 福田吉治. 医学生を対象にした仮想キャリアパス作成によるキャリア教育の有用性. *山口医学* 2014; 63: 201-205.
- 12) エドガー・シャイン. キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう. 白桃書房. 東京, 2003.
- 13) 太田美緒, 前田樹海. 文献に見るわが国の看護教育におけるロールモデルの概念. *長野県看護大学紀要* 2009; 11: 51-61.
- 14) 嶽崎俊郎. 離島へき地医療教育における大学の役割. *へき地・離島救急医療研究会誌* 2009; 10: 8-12.
- 15) 西岡洋右. 各論2: 個人の軸-メンター, ロールモデルとの出会い. *日本プライマリ・ケア連合学会誌* 2013; 36: 355-357.
- 16) 宮田靖志, 八木田一雄, 森崎龍郎, 他. 地域医療必修実習における“Significant Event Analysis (SEA) を用いた振り返り”の検討. *医学教育* 2008; 39: 153-159.
- 17) 北海道医師会. 医学生との座談会. <http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/activity/p010.php> (参照2014-6-5)

Role Models of Medical Students: “Who is Your Role Model?” for Second Grade Students

Yoshiharu FUKUDA

Department of Community Health and Medicine, Yamaguchi University School of Medicine, 1-1-1 Minami Kogushi, Ube, Yamaguchi 755-8505, Japan

SUMMARY

Objectives: Role models, that is, persons whose behavior, example, or success are or can be

emulated by others, are increasingly important in medical education. A class asking medical students about their role models was conducted, and career education related to role models in medical schools is discussed.

Methods : I had the class for second grade students of Yamaguchi University School of Medicine in 2013. The class consisted of introduction of the concept of role models, homework considering the students' role models, and group discussion. The students' role models were analyzed.

Results : A total of 138 persons were given as role models, including mainly specialists,

researchers, general physicians, family doctors and academics. Most of them were well known, such as through the media. The role models included 16 women and 11 faculty members (9 basic scientists and 2 clinicians) of Yamaguchi University.

Conclusions : The students considered various persons as their role models. However, there were only a few immediate clinicians and female doctors. In medical education, students need more opportunities for contact with possible role models, especially women and clinicians at the university.